

変革

―準同型写像の核の美―

伊藤 眞作

スプートニクが
地球を廻っていた

この事実はいなづまのように早く世界中を走りぬけた

スプートニクショック

あのアメリカが
世界のド真ん中で
アカッ恥を
サラスばかりだった

「ライカ犬が
アメリカの一〇二階に
小便をヒツカケている漫画」は
描き直させられた

私は
検眼しながら

忽然と

一つの数式を発見してしまった
私が発見者に思えた

この喜びを

高校の数学の恩師へ速達

返事はすぐ来た

「君の努力は認める
しかし残念ながら
第一発見者ではなかった」

添えられたコピーには
私の発見したての数式が
ソックリソノママ
英語の解説で
活字になっていた

ひと足おそかった！
しかし

「真理ハ唯一ツ」
私は痛感させられた

これで

文部官僚と

ケンカしてやろう

日本中で使われている
全種の教科書の
該当のコピーを揃えた

東京唯物論研究会
もはや五〇才近かった

まず
発見した数式を
つぎに

文部省検定済の
コピーを配布した

日本のは
ギリシャの古代の
数学も哲学と未分化な頃の
古色蒼然たる黴まみれ

文部官僚は

なぜにこうにも

アナクロニズムなのか

こうしてまで

観念論のみを

鼻負せねばならぬのか

「文明開化」どころではない

アメリカの真似さえ

忘れ果てたのか

教授も

助教時も

助手も

院生たちも

一斉に発言を求める

反論も保留もない

口ぐちに

「伊藤先生の数式の通りだ」

(ナゼカ先生ダ)

「文部省に抗議すべきだ」

「来年以降、教員採用試験に

これを出題させるべきだ」

なかには

「これ、使わして貰っても

よろしいでしょうか」

と申し出る方さえ表われた

「これは唯物論の勝利です

だから遠慮はやめて

ジャンジャンお使い下さい

全国各地から

文部官僚に一斉射撃を

加えましょう」

これと

「大論理学」(本質論)

の

〈反省諸規定〉

との間に

抽象代数学の

「準同型写像の核」

を見出した

「埼玉民主文学」

に

「弁証法入門

でみた

分数の割り算」

を発表していた

「弁証法」は

階級意識なしに理解可能になった

これと

「小論理学」

§ 81

「内在的超出」

と

「固有の周期」

との間に

またしても

「準同型写像の核」

を発見したのだった

私はこれを「22世紀アート社」から

「どんなに深い闇夜にみえても

絶対あけない夜は存在しない」

として発表した

――矛盾・苦悩、その真の解決

「変革の見地」

に立てば

肉眼にはみえなかった

「真理」が見える

会社が私に強制した

「見せしめ」の苛烈極まりない

労働は

搾取以前の「収奪」

つまり「ドレイ労働だ」

と『資本論』に発見した

四度目でヤット見つけた

22年6月のアメリカ

八人の警官が

一人の黒人を包囲し

60発を命中させ虐殺した

「彼への虐殺は私への虐殺だ!!」

こう叫んだ私は

「98周年記念講演」と

私に加えられた「奴隷労働」を武器に
家の外にとび出し

「折入って」作戦を開始していた

安倍首相が殺された

しかし怯まず続行した

一本足の人が五歩あるけた

これが私の

「内在的超出」だ

「陽の当たらないひとの味方になろう」

この新たな決意と共に

私の百周年記念日を祝った

本当にうれしかった

悩みがあるから人間!!

「この悩みを

「内在的」に扱えばこそ

「超出」しはじめるのだ

これまでの一切に

もう一度

抽象代数の

準同型の写像の核

をほどこし

半頁にまとめたのが

あの有名な

「フォイエルバッツハテーゼ」

なのだ